Go, Learn, Change!

「国際ガールズ・デー2016報告」

日本で行われたイベントから世界の「Takeover」アクションまで、5回目を迎えた「国際ガールズ・デー」の様子をお届けします。



「国際ガールズ・デー」イベントに出席するため、ルワンダからふたりの女の子とジェンダー専門家のプラン職員が来日。BIAAGエンジェルを務める森星さんとともに

ルワンダの女子中学生2人が来日

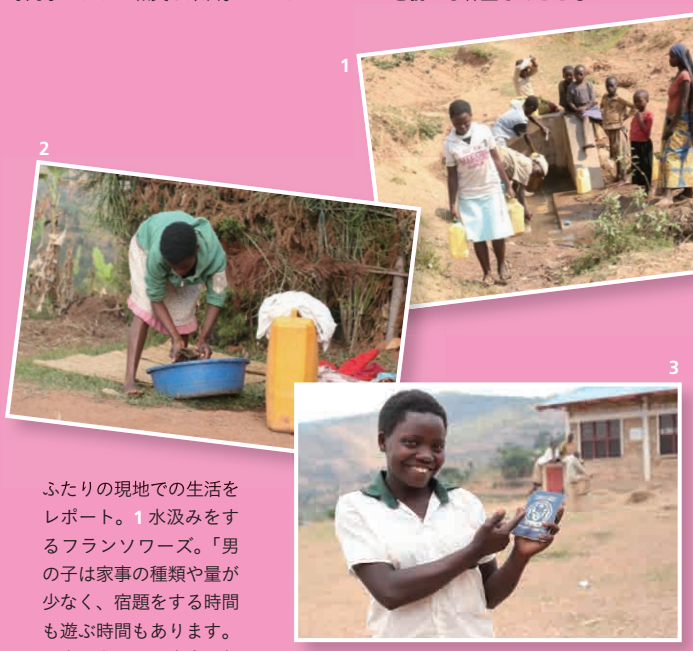
ルワンダの女の子の現状を世界に伝えるために、15歳のフランソワーズとレベッカが来日しました。「国際ガールズ・デー」のイベントでは、村の女の子は家事に追われて勉強の時間がなかなか取れないことや、男の子より能力が低いと思われ馬鹿にされることがあるなどを、自身の経験をふまえてプレゼン。また、フランソワーズは女の子の教育の大切さを訴えるジャーナリスト、レベッカは生まれ育った地域や学校で女の子のためにできることをする医師、とそれぞれの将来の夢も語りました。

フランソワーズのある日のスケジュール

5：00	起床後水汲み
5：40	家の清掃
5：50	準備して学校へ
6：00	学校で自習
8：00-15：00	学校（授業、お昼）
16：20	学校で自習
16：30	帰宅
17：00	水汲み
18：00	家畜の世話
19：30	夕食の準備
20：40	夕食
21：20	宿題
22：00	就寝



ルワンダは中部アフリカに位置。1994年の大虐殺のあと、着実な復興・開発が続いていますが、いまでも国民の約3分の2が貧困ライン以下の生活を余儀なくされています



ふたりの現地での生活をレポート。1水汲みをするフランソワーズ。「男の子は家事の種類や量が少なく、宿題をする時間も遊ぶ時間もあります。一方、女の子は家事で朝から晩まで大忙しで、夜になると疲れ果てて勉強するエネルギーが残っていないこともあります」2洋服と学校の制服を洗うレベッカ。家事に加えて、アボカドを売って家計を助けたり、また障がいのある弟の世話をしています。3生まれて初めてのパスポートを手に、にっこり！

\ with Boys for Change! /



ジェンダー平等を目指す男の子グループ「ボーイズ・フォー・チェンジ」と一緒に、貯金について勉強するレベッカ

国際ガールズ・デーイベント　Go, Learn, Change!

「未来を変えるガールズ・パワー ～ルワンダの女の子たちを迎えて～」を開催！

5 年目を迎えた 10 月 11 日の「国際ガールズ・デー」。今年も、この日を記念してプラン・インターナショナルは東京・代官山でイベントを実施しました。初めてチャリテイ・ラッフルを開催して、大いに盛り上がった様子をお届けします。

9/2

国際ガールズ・デー 2016 特設サイト

ルワンダの女の子たちののため『生理中も安心して通える中学校に　女の子に「ガールズ・キット」を贈ろう！』プロジェクトを立ち上げ、支援募集をスタート。



フランソワーズとレベッカの生いたちや日常、日本での視察の様子をつづった Girls Diary も紹介しています。
https://www.plan-international.jp/girl/idg2016/

9/17

ボーイズ・フォー・チェンジのイベント

ジェンダー平等を進めるには、男の子の協力が不可欠です。ジェンダー平等を目指す男の子グループ「ボーイズ・フォー・チェンジ」が、お掃除とチアで女の子を応援するイベントを実施しました。



国際ガールズ・デー当日には、こんな記念撮影も



10/9

国際ガールズ・デー イベント PART1

ガールズによるプレゼンテーション

ルワンダから来日した、フランソワーズ（左）とレベッカ（右）が登壇。「ルワンダの中学校で今、女の子に起きていること」をテーマに、スピーチを行いました。この日のために、英語も一生懸命勉強したふたり。堂々としたスピーチに、会場は盛大な拍手で包まれました。「日本に来て大勢の人の前で話をしたことで、とても自信がついた気がします」と、レベッカ。



ジェンダー専門家・グレースによるワークショップと安冨歩先生の講演



ルワンダのプラン職員でジェンダー専門家のグレースが、ジェンダー平等についてのワークショップを行いました。フランソワーズとレベッカの話を受け、問題が起こる背景を解説しました。続いて、東京大学東洋文化研究所教授で“女性装の大学教授”としても有名な安冨歩先生（写真）が登壇。日本においても「男性は男性らしくふるまう」というような「立場主義」が存在していることを指摘。男女差別を本質的になくすには、その根幹である立場主義にとらわれず、「ありのまま」にふるまうことが必要だと主張しました。

「ガールズ・パワー」を会場全員でアピール

日本の男子大学生 2 人が登壇し、「男性が女性のエンパワーメントを促進する世界を作ろう」とアピールしました。ジェンダー平等の実現のためには、男性の協力が不可欠です。そして、会場参加者全員で記念撮影を行い、第一部が終了しました！

会場撮影：田村浩章

国際ガールズ・デー イベント PART2

チャリティラッフル



森星さんのスピーチ

モデルで BIAAG エンジェルを務める森星さん（右）が登場。今年の 5 月に、プランの支援先のひとつである、カンボジアの職業訓練学校を訪問したときのことをスピーチしました。最後には、フランソワーズとレベッカとともにフォトセッションも。



当選発表

森星さん提供のバッグをはじめ、計 26 人の協力者による、豪華な出品が並んだチャリティラッフル（抽選会）。サプライズゲストとして登場した、漫画家でコメンテーターのやくみつるさん（写真上）などがプレゼンターを務め、各当選者に商品を手渡ししました。やくさんは 23 年間プランの支援を続け、現在は、ホンジュラスの 11 歳の女の子・ダヤナちゃんと交流中。



→この日のためのオリジナルカップケーキが、会場に華を添えて。Because I am a Girl のロゴやハートがデザインされた、可愛らしいデザインです！また、ルワンダのナッツを使ったお菓子やコーヒーも並びました。

ラッフル協力者の主な方々
（敬称略）と提供品

大崎麻子	入浴剤、サイン入り著書
江原啓之	ご自身が身につけていたブレスレット
増田明美	リオ・オリンピック／パラリンピックのTシャツとキャップ
中村憲剛	本 2 冊（サイン入り）
太田光代	バッグ
角田光代	レシピ本セット（スヌーピーの袋入り）
真矢ミキ	ダイアリー、本
森星	ショルダーバッグ
やくみつる	ニットワンピース

イベント会場の 3 階では・・・

プラン・ジャパンの学生グループ G-SChooL が、今年も世界の女の子の現状を知るためのワークショップを実施。途上国の女の子の人生を疑似体験するすごろくを楽しみました。また、国際ガールズ・デーにちなんだお店もたくさん出展！　寄付つきのアクセサリーやアロマディフューザー、本の販売などが行われました。

＊登壇された方、ラッフルに品物を提供してくださった方は、すべてボランティアでのご協力です

初めてルワンダの村を出たふたり！日本の中学校や大学を訪問。

故郷の村からルワンダの首都キガリまで車で 4 時間、キガリから成田まで飛行機で通算 20 時間以上。ほぼ 2 日間かけて東京へやってきた、フランソワーズとレベッカ。約 1 週間の滞在中は、国際ガールズ・デーのイベント参加に加えて、中学校や大学を訪ねました。

上智大学で講演





生まれて初めての電車に乗って、上智大学へ。エスカレーターも初めてで怖いので、インターンにずっと手を握ってもらっていました。大学での発表は、一生懸命覚えた英語で行いました。

上尾市立東中学校でさまざまな体験を！



埼玉県にある、上尾市立東中学校へ。中学一年生の英語の授業を参観したり、中学二年生の生徒と一緒に給食を楽しんだり、茶道部でお点前を体験したりしました。「授業のときも女の子と男の子が対等で、一緒に座り、むしろ女の子の方が積極的に質問していたりする光景がとても印象的でした」と、レベッカ。また、ジャーナリスト志望のフランソワーズは、取材に同行したカメラマンさん指導のもと、学校訪問の様子を撮影！

東京女子医科大学を訪問



医者志望のレベッカの希望もあり、東京女子医科大学へ。女子医大生と一緒に英語サークル授業に参加したり、救急センターを見学したりしました。レベッカは、赤ちゃんの模型を手に、医師への夢を膨らませて。救命救急センタースタッフの皆さんから、「頑張って夢をかなえてね！」と、声援を受けました。

将来の夢に向けて頑張ります！



照れながら撮影に応じてくれたフランソワーズ（左）とレベッカ（右）。仲良く手をつないでいたのが印象的でした

世界各国で「Takeover」アクション！

GIRLS' TAKEOVER 2016

「国際ガールズ・デー」に、女の子たちがその日一日社会の指導的な立場につく「Takeover」（引き継ぐ）アクションを、世界各国で実施しました。女の子の可能性と変化の必要性を、世界に広く訴えることを目的としたものです。その一部をご紹介。

UGANDA ウガンダ



ウガンダ防衛省の司令官が、９歳の女の子のタイラを１日司令官に任命。「女の子でも、司令官になるという夢をもてると気がつきました。また、軍人は私たちと同じ人間なのだと知りました」と、タイラは感想を述べました。

SPAIN スペイン



コロンビアからスペインを訪れた 15 歳のヤディスが、マドリッド市長に任命されました。彼女は、「権利と夢を奪われている何百万人もの女の子のことを伝えたい。多くの女の子は、もっと意思決定の場に携わりたいと思っている」とコメント。

PARAGUAY パラグアイ



オラシオ・カルテス大統領が、女の子を省庁職員に任命。また、ジェンダー平等を達成して、女の子も当たり前にリーダーになれる環境にするには何が必要なのか、ディスカッションの場を設けました。

NORWAY ノルウェー



プラン・インターナショナル・ノルウェー事務局長を任命された 17 歳のヴィヴィアンと、オンライン誌の編集長を任命された 17 歳のハンナが、エルナ・ソルベルグ首相のもとへ。女の子の早すぎる結婚に反対することの大切さなどを訴えました。

USA アメリカ合州国



アメリカでは、ウガンダから来た 23 歳のアミナーが、メリンダ・ゲイツのインスタグラムアカウントを１日だけ〝乗っ取り〟。「ウガンダの若者の状況を世界にもっと知ってもらい、女の子の地位を向上することに貢献したい」とメッセージを投げかけました。

NEPAL ネパール



ソーシャルワーカーになることを目指し学んでいる 17 歳の女の子が、ネパール大統領として模擬議会に参加。女の子と女性の権利に関する行動計画と解決策を、高名な議員と大統領、政府高官へ提示しました。



「世界ガールズ・レポート 2016」が完成しました！



国連が発表した持続可能な開発目標（SDGs）の目標５「ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る」の実現のためには、女性と女の子たちの実情を正確に伝えるデータが必要ですが、まだ大幅に不足しています。その問題意識もあり、今回は「見えない存在に光を当てる」をテーマに、ジェンダーに関するデータの昨今の状況を探りました。詳しくは、ウェブサイトをご覧ください。
https：//www.plan-international.jp/about/libraries/data/

国際ガールズ・デーの軌跡

2011 年 12 月 19 日	プランの働きかけにより 10 月 11 日が国連「国際ガールズ・デー」に
2012 年 第 1 回	「Girl's Impact ～ガールが世界を変える～」 Raise Your Hand アクション開始
2013 年 第 2 回	「世界を変えるもう一人のマララたち」 パキスタンの女子大生が来日
2014 年 第 3 回	「13 歳で結婚。14 歳で出産。恋は、まだ知らない。」 ネパールの男の子と女の子が来日。『Girl Rising ～私が決める、私の未来～』と『I AM A GIRL』プレミア上映会
2015 年 第 4 回	ドキュメンタリー映画『わたしはマララ』 日本初の特別試写会とジャーナリスト池上彰さんのトークセッション モデル森星さんが BIAAG エンジェルに就任 「羽ばたけ！世界の女の子」SNS アクション #Girl4President